

財団法人日本バレーボール協会 第 202 回理事会 議事録

日 時：平成 21 年 5 月 25 日(月) 14：00～16：00

会 場：JVA 事務局会議室（東京・渋谷区）

出席者：立木会長、中野副会長、梅野・山根・岩満・萩原・成田・下山・不老・倉橋・竹内・三屋・ゼッターランド・岩井・中島・小場・西川・紺屋・大塚・小島各理事

【委 任】 山岸・清水・森田・残間・河合各理事

【監 事】 岡崎・高橋・大久保各監事

陪席者：五十嵐・三浦・斎藤・小田桐・谷地・中野・天野(事務局)

理事現在数 25 名、うち出席 20 名、委任 5 名で寄附行為第 28 条に基づき理事会が成立。議事録署名人に倉橋操理事、小場貴之理事を指名。14 時 10 分、立木会長を議長に議事に入る。

理事の紹介について

(小島理事)

役員改選後、初の理事会であったため、平成 21・22 年度 JVA 理事の紹介があった。

<審議事項>

1. 平成 21・22 年度 JVA 評議員の選任について

(立木会長) 資料により説明。

寄附行為第 23 条第 2 項に「評議員は理事会で第 32 条に掲げる加盟団体の推薦する者、ならびに学識経験者のうちから選出し、会長が任命する」とある。

資料に記載の各加盟団体より推薦いただいた方々について、理事会のご承認をいただきたい。

※詳細は資料に記載の通り。

以上のとおり資料に基づき趣旨説明があり、理事会は平成 21・22 年度 JVA 評議員の選任について諮り、異議なく承認可決。

2. 平成 21・22 年度各事業本部本部員、各委員会委員の選任について

(立木会長) 資料により説明。

理事会の権能に「執行役員会、特別委員会、一般委員会の人事」とある。資料に記載の

各事業本部、各委員会の本部員、委員のご承認をお願いしたい。

※詳細は資料に記載の通り。

(成田理事・強化事業本部本部長) 説明。

資料に記載していないが、強化事業本部・一貫指導委員会に以下の2名の追加をお願いしたい。

西坂 恭明 氏

財間 常文 氏

以上のおお趣旨説明があり、理事会は平成21・22年度各事業本部、各委員会の本部員、委員の選任について諮り、異議なく承認可決。

3. 平成21・22年度 JVA 顧問、参与の選任について

(立木会長) 説明。

寄附行為第26条第3項「顧問はこの法人の会長、副会長および専務理事であった者またはこの法人に功労のあった者のうちから、理事会が推薦した者につき、会長が委嘱する。」に基づき、本会の副会長経験者の橋爪静夫氏、丸山誠氏を「顧問」に推挙したい。

また寄附行為第26条第4項に「参与はこの法人の理事、監事または在任期間10年以上評議員であった者のうちから、理事会が推薦した者につき、会長が委嘱する。」とある。現在調査中であるが、各加盟団体の改選後に、評議員10年以上経験者で引退された方々を「参与」に推挙したい。

以上のおお趣旨説明があり、理事会は平成21・22年度 JVA 顧問、参与の選任について諮り、異議なく承認可決。

4. 平成21年度役員の報酬について

(立木会長) 説明。

寄附行為第22条に「役員は無給とする。ただし、常勤の役員は有給とすることができる。」とある。

「役員の報酬、退職金に関する規程」に則り、次の理事に報酬を支払うこととしたい。

1. 山岸紀郎理事
2. 萩原秀雄理事
3. 下山隆志理事

以上のおお趣旨説明があり、理事会は平成21年度役員の報酬について諮り、異議なく承認可決。

5. 平成20年度事業報告、並びに決算見込みについて

〔1〕 業務推進事業本部

(岩満理事・業務推進事業本部本部長) 資料により説明。

*長期グランドデザインの作成

平成20年12月1日施行の新公益法人制度に伴い、新制度に対応した機関への変更など、多々ある必要事項を研究、検討し、新しい法人設立に向け、専門家を加えた小委員会を設置し、具体的な移行計画を推進する。(平成21年度に新公益法人制度対策小委員会の設置)

*JVAメンバー制度(MRS)

- ① 役員会員(JVA役員、審判員、指導員)の登録。
- ② 選手・スタッフ会員の登録。
- ③ ファンクラブ会員の発展的解消→モバイル
- ④ 大会エントリーシステムの確立(平成21年度)。

*情報化推進事業

- ① 全国的なIT化のレベルアップ、セキュリティ対策と整備(継続)。
- ② ネットワークによる連絡網の整備(継続)。
- ③ MRS会員への情報の提供。英文でのサービスも検討(継続)。

*公益法人制度改革

平成20年4月28日の寄附行為一部変更認可を受け、諸規程についても、文言を含め、現実的な規程に改正した。

*環境問題啓発活動の促進

- ① JOCスポーツ環境委員会へ協力。
- ② 国内開催の競技会で啓発活動の実践。

〔2〕 強化事業本部

(成田理事・強化事業本部本部長) 資料により説明。

*全日本男子チーム

- ① OQT…6勝1敗2位。アジア最上位で出場権獲得。
- ② ワールドリーグ…グループ戦3位。決勝出場6位。
- ③ 北京オリンピック…11位。

*全日本ジュニア・ユース男子チーム

- ① アジアジュニア男子選手権…7位。
- ② アジアユース男子選手権…2位。世界ユース男子選手権出場権獲得。

*全日本女子チーム

- ① OQT…6勝1敗3位。アジア最上位で出場権獲得。
- ② ワールドグランプリ…決勝ラウンド1勝4敗6位。
- ③ 北京オリンピック…5位入賞。

*全日本ジュニア・ユース女子チーム

- ① アジアジュニア女子選手権…優勝。世界ジュニア女子選手権出場権獲得。

② アジアユース女子選手権…優勝。世界ユース女子選手権出場権獲得。

***ビーチバレー（シニア）**

① FIVB ワールドツアー…佐伯/楠原、白鳥/朝日 オリンピック出場権獲得。

② 北京オリンピック…佐伯/楠原 予選ラウンド敗退。白鳥/朝日 9 位。

***ビーチバレー（ユニバ・ジュニア）**

① 大学世界選手権（ハンブルク/ドイツ）…長谷川/長谷川 17 位、草野/尾崎 5 位。

***一貫指導**

① 選手発掘…U14 都道府県大会、ブロック大会、全国大会
46 都道府県大会、2 ブロック大会を開催。

② 育成、強化…長身選手発掘育成 ドリームス、9 ブロック中・高合宿
9 ブロックで中・高強化合宿を実施。

③ 啓蒙…育成選手ワッペン配布計画、効果促進
定着化。デザイン変更検討。

④ 教育計画会議…全国委員会、ブロック委員会
U14 チャンピオンシップブロック大会準備委発足。

⑤ ゴールドプラン…2020 年への基本計画、教材改訂、普及
一貫指導カリキュラム改訂作業進行。

***医科学サポート**

アナリスト班・トレーナー班：全日本チームのサポートを実施。

調査研究班・情報処理班：技術、ルール等の解明と分析研究に成果。

***アンチ・ドーピング小委員会**

ドーピング検査の実施、JADA によるアンチ・ドーピング説明会（全日本チームも合宿中に実施）。

〔3〕 M&M事業本部

（岩満理事・前M&M事業本部本部長）資料により説明。

***マーケティング**

① 天皇杯・皇后杯全日本選手権のスポンサー獲得

2009 年度大会から全日本空輸（株）をスポンサーに迎えることができた。

② 新領域スポンサーの獲得および既存スポンサーへの充実したフォロー作業
特筆できる作業はなかった。

③ “Something New” 的な企画開発

高齢化社会に向けた新たな試みとして、出場資格を 50 歳以上に限定した男性中心の生涯スポーツとしての大会「Vintage Eight's」企画実施準備。競技は 6 人制のコートで 9 人制競技規則に基づいたオンザコート 8 人の新規特別ルールを採用。全国 10 ブロックにて地区大会を行い、国内一ヶ所で全国大会を開催する。2010 年度スタートであるが、2009 年度沖縄にてプレ大会を開催することが決定。既にプレ大会を含め 1 社の協賛が決定。

④ 2012 年ロンドンオリンピックに向けてのプロモート企画立案

JOC のマーケティングプログラムの大幅変更に対応すべく、JVA マーケティングプログラムの選手肖像を利用できる権利内容を細分化し金額も下げ、より販売しやすいように変更。

ただし期中で予想外の経済不況に見舞われる。

*マーチャндаイジング

① 肖像権ビジネス

オリンピックイヤーであったが、チベット問題などでオリンピック関連キャンペーンが影響を受けたと思われる。

② JVA グッズ・天皇杯皇后杯グッズの開発と拡充

天皇杯・皇后杯都道府県予選会場でのグッズ販売は苦戦。

③ 大会会場でのグッズ販売の拡大

天皇杯・皇后杯都道府県予選会場でのグッズ販売は苦戦。

*IT 関連

① 携帯電話サイトの運営及びコンテンツの見直し・整理・開発

バレーボールモバイル（課金システムの携帯サイト）での収入は6,000万円弱となった。2009年度からau、ソフトバンクにも拡がる予定なので、今後非常に楽しみである。

〔4〕 国際事業本部

（下山理事・国際事業本部本部長）資料により説明。

*OQT

① FIVB スタンドアードを遵守した運営準備…高い運営水準で終了。女子オリンピック参加資格については、大会終了直前に上位3か国+左記を除くアジア最上位国と確認され、1位 POL 2位 SRB 3位日本+5位 KAZ となる。

② 大会開催方式…5/13-6/8まで東京1か所開催。（財）東京都バレーボール協会の大きな協力を得て、JVA直轄大会として実施。

③ 入場券販売…女子7日+男子7日=計14試合日。約99,000席販売し総合で77,500席(78%)を販売。

④ プロモーション展開…TBS・フジテレビ両放送局のTV宣伝、電通・JVA共同の各種媒体宣伝実施。

⑤ 高視聴率の確保…女子 関東平均 15.2%、男子 関東平均 14.7%。

*ワールドリーグ

① FIVB スタンドアードを遵守した運営…TV放送数は要再考。

② 大会開催方式…全開催地 JVA直轄方式。小牧・大阪=入場券販売委託方式。

③ 入場券販売…オリンピック出場権獲得効果で各地ほぼ満員。

*ワールドグランプリ

① FIVB スタンドアードを遵守した運営…ほとんどの項目でExcellent評価。

② 大会開催方式…神戸 開催地運営委託方式、横浜 JVA直轄方式。

③ 入場券販売…TBS事業部に興行権販売。

④ TVとの連携強化…TBSテレビと放送のみならず事業、営業含め密接な連携を実現。

*2008FIVB ビーチバレーワールドツアー

プロモーター毎日放送(MBS)及び大阪府バレーボール協会の責任体制で無事、成功裏に終

了。

*第20回アジア太平洋カップ

アジア地域におけるリーダーシップ^oを発揮し成功裏に終了。

〔5〕国内事業本部

(成田理事・前国内事業本部本部長) 資料により説明。

(1) 国内事業本部

- ① 新規事業の推進…天皇杯・皇后杯全日本6人制選手権大会
参加チーム数、観客数が微量ながら増加したが、課題も多い。
- ② 加盟登録チームの増…7万チームを目指す
収入予算額は達成、チーム数増は今後も継続。
- ③ 競技会の抜本的見直し…主催競技会の見直し
9人制競技会の見直しは進んだが、全体の課題が残った。
- ④ 協力役員の養成…会員制度の確立
役員・選手の帰属意識の向上は7割程度。
- ⑤ 他事業本部との連携…用具の公認と競技会の協賛獲得
用具検定委員会・マーケティングへの情報提供を行った。

(2) 国内競技委員会

- ① 競技会の見直し…プロジェクトでの検討の継続
21年度に向けた具体的な実施案を提示した。
- ② 登録制度の定着…個人登録制度と競技会運営との連携
登録制度も定着し、競技会運営の円滑さも増した。
- ③ IT化の推進と活用…大会申し込みとチェック体制の検討
今後のMRSによる大会申し込みの方向性を確認。
- ④ 競技研修会の充実…競技会運営の充実と工夫
競技会運営の情報交換を行えるように工夫した。
- ⑤ 日体協関連事業…国体9人制問題及び今後の国体運営の検討
9人制活性化を視野に入れた運営を検討した。
- ⑥ 新規事業の推進…天皇杯・皇后杯全日本6人制選手権大会
各ブロックとの連携を図り、大会運営に協力した。

(3) 指導普及委員会

- ① 指導者の資質向上
現状や要望に即した研修会・講習会の内容の検討。公認資格を持つ指導者を増やすための啓蒙活動。
- ② 総合型クラブ育成事業の拡大
総合型クラブの現在の活動状況の把握。新たに育成モデル事業として3県を認定。

③ バレーボール愛好者に対する支援活動

プレーヤーに対する研修会の計画と、研修会・大会・資格取得の、広報活動のホームページ作成。

(4) 審判規則委員会

① 新しい人材の発掘・育成

女性審判員を発掘できるようになった。若年層の審判員の発掘が不足した。

② 技術の安定・向上

基本技術は向上したがメンタル面の指導が不足した。

③ スキルアップ事業の推進

レベルに応じた講習会・研修会を例年どおり開催でき効果をあげた。

④ ルールの研究

判り易い日本語を使いルールブックを作成した。9人制ルールに対する研究不足。

⑤ 公認審判員・判定員のあり方の検討

B級審判員の登録促進に努めたが、都道府県に温度差があった

<質疑応答>

JVA選手の肖像権等に関する管理、運用についてご説明いただきたいとの質問があった。これに対し、JVA選手の肖像等に関する管理、運用に関する規程に則り、M&M事業本部がその管理、運用を行っているので、今後もお気づきのことがあればM&M事業本部までお知らせいただきたいとの説明があった。

【6】 決算見込みについて

(岩満理事・業務推進事業本部本部長) 資料により説明。

決算業務はほぼ終わりつつあるが、本日現在の状況は資料にお示ししたとおりである。

最終的には多少の変動があるかもしれないが、決算見込みという前提でご一覧いただきたい。

収入は予算額 24 億 760 万円に対して 25 億 3,452 万円で 1 億 2,692 万の増、支出は予算額 24 億 760 万円に対して、24 億 1,148 万円で 388 万円増、差し引き 1 億 2,300 万円ほどの黒字を現時点で見込んでいる。

今後の進行予定として、5 月末までに最終決算をまとめ、6 月上旬の監査法人による外部監査、および 6 月中旬の執行役員会による審議を経て評議員会に諮問、そして理事会で承認可決する方向を考慮しているが、本日現在の決算見込み、および今後の進行予定についてご承認をいただきたい。

※詳細は資料に記載の通り。

以上のとおり趣旨説明があり、理事会は平成 20 年度事業経過報告、並びに決算見込みについて諮り、異議なく承認可決。

6. 諸規程の一部変更等について

(岩満理事・業務推進事業本部本部長) 資料により説明。

* 執行役員の追加について

執行役員会規程第 3 条第 2 項の執行役員数 21 名以上 40 名以内を、今期（平成 21・22 年度）に限定した例外措置として、1 名増員願い、41 名としたい。理由は資料に記載の通りである。

執行役員候補： 鈴木 裕史（日本ヤングクラブ連盟副理事長）

* 事務局規程の一部変更案について

主な変更点は事務局長に関して明文化したことである。

※詳細は資料に記載の通り。

以上のとおり趣旨説明があり、理事会は執行役員 1 名追加及び諸規程の一部変更について諮り、異議なく承認可決。

ただいまご承認いただいた事務局規程は、平成 21 年 5 月 25 日から施行する。

<審議事項>

1. FIVB 理事会報告

(立木会長) 説明。

ウェイ新会長のもと、FIVB 実行委員会、理事会が行われた。

国際間の選手の移籍問題や、エリートバレーの大会（トップレベルのチームが出場する大会）だけではなく、マスバレー(大衆バレー)のフェスティバルなどを開催し、グラスルーツ(草の根)を広げることについて話し合われた。

またビーチバレーのオリンピック出場権についても話し合われ、今までチームに与えられていた出場権はその出場権を獲得したチームの所属する NF(協会)に帰属し、NF(協会)による出場選手の変更が可能となった。また今後オリンピックの出場権は、ワールドツアーランキング上位 16 チーム、新規開催されるワールドカップの各大陸大会優勝 5 チーム(各大陸から 1 チームずつ)、ワールドカップ決勝ラウンド勝者 2 チーム、オリンピック開催国 1 チーム(出場権を獲得していなければ)の計 24 チーム(の所属する NF(協会))に与えられることになった。

2. 各事業本部報告

〔1〕 業務推進事業本部

(1) 広報委員会

(小島理事・広報委員会委員長) 説明。

ホームページの充実はもちろん、メディアの方々とより良い関係を保っていきたい。

(2) 用具検定委員会

(岩満理事・用具検定委員会委員長) 説明。

今年度より、公認シューズと公認サポーターに(株)デサントが新たに加わった。

〔2〕 強化事業本部

(成田理事・強化事業本部本部長) 説明。

7月にメキシコで開催される世界ジュニア女子選手権だが、メキシコを中心に発生している新型インフルエンザ問題に考慮し、派遣中止を決定した。

また全日本女子チームのヨーロッパ遠征は、全日程にドクターを必ず帯同させて管理するという条件の下、派遣することに決定した。

〔3〕 国際事業本部

(下山理事・国際事業本部本部長) 資料により説明。

***2010 女子世界バレー(2010 女子バレーボール世界選手権) 大会要項(案)**

※資料に記載の通り。

〔4〕 国内事業本部

***国内事業本部の課題**

(萩原理事・国内事業本部本部長) 資料により説明。

※資料に記載の通り。

***全国高等学校バレーボール選抜優勝大会開催期日変更について**

(倉橋理事) 資料により説明。

「春の高校バレー」の愛称で親しまれている全国高等学校バレーボール選抜優勝大会は現行3月に開催しているが、高校3年生も出場できる真の日本一を決める大会となるよう、開催時期を変更することを検討している。

※詳細は資料に記載の通り。

***JVA エリートアカデミーオーディション実施要項**

(萩原理事・国内事業本部本部長) 資料により説明。

※資料に記載の通り。

***FIVB 新ルールについて**

(西川理事・審判規則委員会委員長) 説明。

4月から小学生、中学生、高校生にもFIVBの新ルールを導入したが、1年間新ルールを

適用し、子どもたちの安全が守られるルールなのかを検討しながら、今後を決めていきたい。

以上で全議事を終了、16時00分閉会。